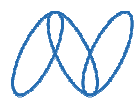


2018 年度（平成 30 年度）

事業報告および決算報告書

自 2018 年(平成 30 年) 4 月 1 日

至 2019 年(平成 31 年) 3 月 31 日



一般財団法人 日本生物科学研究所
N I B S NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE

1. 事業の概要と特筆すべき成果

2018年度は、事業計画に基づき産業動物の衛生問題対策、食の安全性を確保する畜水産物の生産および伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応じて貢献すべき事業分野の基礎的および応用的研究を実施した。また、当所で蓄積されてきた研究成果・技術は、産業動物の衛生問題・環境を改善するための技術および材料提供に活かされ、また病性鑑定ならびに国内外関係者の研修・講習会などに積極的に活用された。

当所は、2018年4月より製造部および実験動物部（北杜市小淵沢町）を日生研株式会社へ移管した。これに伴い日生研株式会社の要請に応じて、製造部、実験動物部、品質管理部、製品開発部、営業部、海外事業部に対する技術的ならびに学術的支援を積極的に行った。

2018年9月11日から13日にかけて、つくば国際会議場において、第161回日本獣医学会学術集会を司宰し（長井伸也会長、渋谷一元事務局長）、1,500名を超える会員、学生および非会員の参加を得、盛会のうちに終了した。会期中には、3題のシンポジウムおよび7題のランチョンセミナーの開催に加え、農林水産省及び農研機構の協力のもと全国に先駆けてアフリカ豚コレラおよび豚コレラの現状と対策についての公開シンポジウムを開催した。

2018年には日生研株式会社を通じて申請した2製剤の製造販売承認申請が承認され、また1製剤の用法拡大の事項変更についても承認が得られた。加えて2018年度は新たに2製剤について製造販売承認申請を行った。

2. 研究課題及び関連業務

2018年度は研究課題21課題を実施した。動物用生物製剤（ワクチン）として製造販売承認申請中の製品化課題2課題、製品化を目指す課題11題、基礎研究課題8題、その他業務を実施した。

3. 病性鑑定

検査部では外部の依頼に応じ、研究部と協力してブタ、ニワトリおよびウシ、合計274件の病性鑑定を実施した。

4. 抗体検査

- 1) 検査部では外部の依頼に応じ、ブタ、ニワトリおよびウシ、合計1,124件の抗体検査を実施した。また、SPF鶏およびミニブタ、計828検体の抗体検査を実施した。
- 2) 抗体検査方法の効率化・迅速化に取り組み、3項目の検査について中和試験から

ELISA システムを完成させ、効率化・迅速化を推進した。

5. 研究成果の発表

- 1) 研究論文 6 報を国際英文誌（査読あり）に発表した。
- 2) 研究論文 1 報を邦文誌（査読あり）に発表した。
- 3) 研究解説論 2 編を邦文誌に発表した。
- 4) 研究成果 6 題を学会および研究会に発表した。

6. 学術広報

- 1) 日生研たより国内 771 ヲ所、国外 26 ヲ所、合計 797 ヲ所の関係機関と個人へ、4 回無償で各 939 部を配布した。
- 2) 日生研たよりや事業内容の広報、情報公開をホームページにより積極的に行った。

7. 学会および研究会活動

- 1) 学会および研究会

当所の研究員は、2018 年 4 月 1 日現在、15 学会に延べ 51 名、6 研究会に延べ 17 名が所属している。また、賛助会員あるいは団体会員として 18 の学会・研究会等の運営に協力した。

- 2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況・成果を発表する第一研究会を開催した。
- (2) 外部から専門家を講師として招聘し、公開講演会（第二研究会）を 5 回開催した。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的を実施した。
- (4) 研究員が広く知識を吸収するため専門誌に掲載された学術論文の抄読会を定期的を実施した。
- (5) 研究員の語学力向上をはかるため毎週 1 回、米国人講師による英語教室を開催した。

8. 研修および技術協力等

- 1) 研究員等の知識・技術能力向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会、研修会、講習会等を延べ 51 名が受講した。
- 2) 大学、研究所などの延べ 3 機関からの要請に応じて微生物株、検査材料など、延

べ3種類の研究材料を譲渡した。

3) 大学および研究所などから微生物株など13種類の研究材料を譲受した。

9. 特許

国内の特許出願1件、台湾出願の特許公開1件、国際出願（PCT出願）1件について9ヵ国の移行手続きを実施した。

10. 講師等の派遣

各県や大学など国内延べ9機関で開催された研究会、講習会、研修会、業績発表会等に研究員等を講師、助言者、審査員等として派遣した。

11. 外部組織・委員会・学会等の役員等

13機関の外部組織・委員会・学会等の理事、評議員、委員、専門家としてそれらの運営等に協力した。

12. 日生研奨励賞および日生研功労賞の授与

1) 日生研奨励賞

本年度も選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。

2) 日生研功労賞

選考委員会からの推薦に基づき、次の2チームに授与した。

(1) 豚胸膜肺炎(APP)の菌体ELISAからLPS ELISAへの切り替え チーム

(2) 鶏伝染性喉頭気管炎ウイルス(ILTV)の抗体測定ELISA化 チーム

13. 実験動物使用数

動物の愛護および管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験等及び実験動物生産の管理に関する規程」に沿い、28件の実験を行った。